

社会 第6学年 世界のなかの日本とわたしたち

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。日本文教出版の年間指導計画にある「世界がかかえる問題と日本の役割」に対応した独自案。教材本文・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

本案で見るのは、児童が「世界の課題を解決するため、日本は他の国や機関とどう協力しているだろうか」に対し、資料の事実と考えを区別して答えられるかである。日本は国際連合の一員として平和や諸外国の発展のため協力しているというまとめを暗唱できるだけでは、本時の目標に届いたとは判断しない。教育・医療・農業などの具体例を選び、現地の人々の課題、国際機関や日本の協力、続けるための条件を図にする。支援する側だけでなく受け取る側や現地の担い手の資料を比べる。根拠の指し示し方や説明の修正を見ることで、教師は次に何を確かめればよいかを判断できる。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第6学年〕(3)	(3) グローバル化する世界と日本の役割について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
〔第6学年〕(3)ア(イ)	(イ) 我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解すること。
〔第6学年〕(3)ア(ウ)	(ウ) 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。
〔第6学年〕(3)イ(イ)	(イ) 地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を捉え、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現すること。

単元の目標

日本は国際連合の一員として平和や諸外国の発展のため協力していることを理解し、地図・写真・統計・説明資料と調査記録を扱う技能を身に付ける。「世界の課題を解決するため、日本は他の国や機関とどう協力しているだろうか」を追究し、根拠を基に考えを表す。自分の記録を見直し、分からないことを確かめながら学習に取り組む。((3))

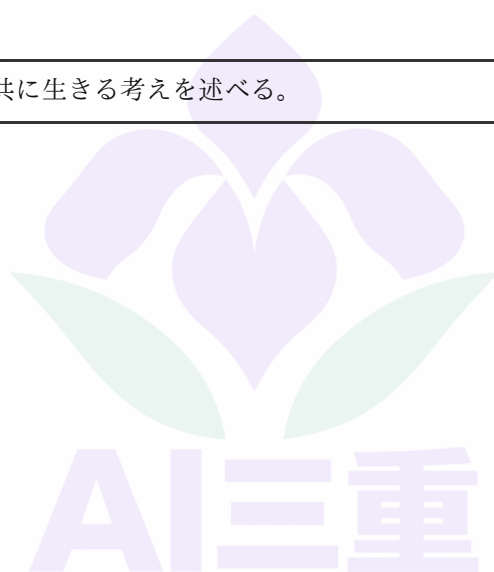
評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日本は国際連合の一員として平和や諸外国の発展のため協力していることを理解している。 ②地図・写真・統計・説明資料と調査記録について、対象、条件や時期、調べて分かったことを区別して記録している。	①「世界の課題を解決するため、日本は他の国や機関とどう協力しているだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。	①世界がかかえる問題と日本の役割の学習で生じた疑問について、自分の記録や友達の考えを基に調べ方や説明を見直し、解決しようとしている。

単元の流れ

日本文教出版の年間指導計画の配当「全6時間」を参照。全6時間はcatalog収録の標準配当。以下の各次への配分と本時の位置は本資料の授業案であり、出版社の授業配当の転載ではない。学校の年間計画と観察・調査の進み方で調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○世界の課題の具体例から問いを立てる。	知①・知②（記録・活動の観察）
第2次	2	○国際機関の活動を調べる。	知①・知②（記録・活動の観察）
第3次	3	○日本と現地の人々の協力を読む。	知①・知②（記録・活動の観察）
第4次	4	○取組を続ける条件を比較する。	知①・知②（記録・活動の観察）
第5次	5 （本時を含む）	○日本が果たす役割を資料で検討する。 ○教育・医療・農業などの具体例を選び、現地の人々の課題、国際機関や日本の協力、続けるための条件を図にする。 支援する側だけでなく受け取る側や現地の担い手の資料を比べる。	思①（個人の説明・記録）
第6次	6	○世界の人々と共に生きる考えを述べる。	態①（記録の見直し・振り返り）



本時の案

本時の目標：「世界の課題を解決するため、日本は他の国や機関とどう協力しているだろうか」について、資料の事実を示しながら自分の考えとその理由を説明できる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	○前時までの記録から「世界の課題の具体例から問いを立てる」ときの疑問を取り出す。 ○「世界の課題を解決するため、日本は他の国や機関とどう協力しているだろうか」 【めあて】調べた事実を使い、自分の考えと理由を説明しよう。 ○一人で予想と理由を書き、調べたい点を確認する。 〈予想される児童の反応〉 ・日本は国際連合の一員として平和や諸外国の発展のため協力しているのか確かめたい。 ・前の記録と比べると違いが見つかりそう。	・答えを先に示さず、児童がどの記録を根拠にしたかを尋ねる。 ・苦境にある子どもの画像を衝撃を与える目的で使わない。国や人々への優劣表現を避け、寄付や外部連絡は授業内で実行しない
展開 (分)	○前時までの観察・調査の記録を使う。以下に示す調べ方を振り返り、本時は問いに関係する記録を比較する。追加の実験・調査は方法を計画し、次時に確かめる。 ○教育・医療・農業などの具体例を選び、現地の人々の課題、国際機関や日本の協力、続けるための条件を図にする。支援する側だけでなく受け取る側や現地の担い手の資料を比べる。 ○「どの資料の事実から、そう考えましたか」 ○自分の説明を相手に示し、根拠が同じか違うかを比較する。 ○説明できない記録があれば条件や資料の読み方を確認め直す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じだと思ったが、比べるところをそろえると違いがある。 ・この記録だけではまだ決められない。 ・取組を続ける条件を比較することで、理由を確かめたい。	・日本が一方向的に助けるという説明には現地の知恵や共同作業、支援後の運営を示す。世界の全課題を列挙するのではなく一つの具体例から役割を考える ・結果に合わない意見も記録へ戻す材料として取り上げ、発言した児童を責めない。 ・比較が難しい児童には記録の対応する箇所を指し示し、まず事実を口頭で説明させる。 ・本時に単元全体の実験や調査をやり直さない。比較する記録を準備し、方法を確認する必要がある部分だけを実物で示す。 ◎思①「世界の課題を解決するため、日本は他の国や機関とどう協力しているだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。（個人の記録と説明。交流前後の変更理由を含めて見る。）

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （ 分）	○本時の問いへの答えを、根拠となる資料の事実とともに書く。 【まとめ】日本は国際連合の一員として平和や諸外国の発展のため協力している。 ○最初の考えから変わったことと、まだ調べたいことを記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・考えが変わったのは、記録を比べたときに違いを見付けたから。 ・まだ確かめていない条件が残った。	・まとめは確認した資料の事実を根拠に書く。資料によって見方が分かれる場合は、作成時期・立場・対象を確かめ、未確認の点を残す。 ・振り返りで分かった支援の必要な点は次時の活動に反映する。 ◎知①（まとめの説明）／態①（記録を見直す過程。発言回数や文章量だけで判断しない。）

板書の構造

上段に「世界がかかえる問題と日本の役割」と本時の問い「世界の課題を解決するため、日本は他の国や機関とどう協力しているだろうか」。左側に予想とその理由、中央に実際に調べた事実の記録、右側に事実から考えた説明を置く。中央は条件・時期・対象が分かる見出しにし、比較する記録を同じ高さに並べる。取組を続ける条件を比較する際に用いた記録を残し、根拠と説明を線で結ぶ。下段には確かめられたことと、まだ残る問いを分けて置く。発言の多い子の説明だけで仕上げず、個人の記録の違いを残す。

つまづきやすい所と手当て

日本が一方的に助けるという説明には現地の知恵や共同作業、支援後の運営を示す。世界の全課題を列挙するのでなく一つの具体例から役割を考える

準備するのは、学級で使う実物や資料と、対象・条件・時期を対応させて残せる記録用紙である。教師は事前に資料の出典や器具の働きを確かめ、児童に渡す記録と教師の説明を区別する。苦境にある子どもの画像を衝撃を与える目的で使わない。国や人々への優劣表現を避け、寄付や外部連絡は授業内で実行しない

本時の評価で説明と根拠が結び付かない場合は、言葉を追加して教え込む前に、比べる対象がそろっているかを見直す。口頭では説明できるが記述が難しい場合は、図と指差しも証拠として残す。

プリントの案

世界がかかえる問題と日本の役割の問いと記録

上段は「調べたいこと」と「最初の考え・理由」。中央は対象、条件・時期、分かった事実、確かめた方法の欄。教育・医療・農業などの具体例を選び、現地の人々の課題、国際機関や日本の協力、続けるための条件を図にする。支援する側だけでなく受け取る側や現地の担い手の資料を比べる。下段に事実から考えた説明と残った疑問を書く。教材本文・写真は印刷せず、利用できる実物や公的資料の出典を書き入れる。

説明を確かめ直すカード

問い「世界の課題を解決するため、日本は他の国や機関とどう協力しているだろうか」への自分の答え、根拠の記録、友達の説明との共通点・相違点、修正した箇所と理由の欄を設ける。修正しない場合も根拠を確認した理由を書く。文字を書く代わりに図や口頭説明の記録も使える。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）。本文は取得済みの文部科学省表V1.2と照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校社会。評価の観点と記録を用いる考え方を参照。事例の文章は転載していない。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_shakai.pdf）／日本文教出版年間指導計画。単元名・配当時数・掲載時期の出典。（https://www.nichibun-g.co.jp/textbooks/s-shakai/download/r6/r6_shakai_nenkei_6.xlsx）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

